

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170502785		
法人名	特定非営利活動法人 実りの里 りん		
事業所名	グループホーム 凜		
所在地	札幌市白石区米里3条1丁目2番4号		
自己評価作成日	平成25年6月1日	評価結果市町村受理日	平成25年12月18日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_2012_022_kani=true&JigvosvoCd=0170502785-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット
所在地	札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401号室
訪問調査日	平成25年11月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当ホームの入居者の高齢化が進んで個々の体力には差があるものの毎日散歩(天候、健康状態を考慮して実施)と散歩を通して行われる地域住民との交流は入居者の健康の増進と社会性の向上に大きな成果が得られており住宅地に立地する当ホームの利点であると自負しています。パークゴルフも実施しており施設周辺には公共のコースもあり入居者の方々の楽しみと健康の向上に繋がっています。また当ホームではAEDを設置して入居者のみならず地域住民の方々が健康上の変化を伴う緊急時にも利用していただけるように回覧板で周知を図らせていただいていると同時にホーム玄関、ホール窓ガラスに専用ステッカーを貼らせていただいています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は閑静な住宅地に位置し、木造二階建ての家屋は周辺の町並みに溶け込んでおり、老人の共同住居とは一見して思えない建物である。当事業所を運営しているNPO法人の理事長は当地で開設後に事業所の向かいの空き地に自宅を新築するなど、並々ならぬ決意で臨んでおり、思いの強さはケアにも反映されている。例えば介護職員の密な連携にも現れ、散歩ですの一声で連れ出す人、残って他のケアに従事する者と役割分担がスムーズに行われている。前述のとおり当事業所では一日2回の散歩が日課になっているが、荒れた天候以外は毎日実施され、お年寄りの体力増強や外気浴の恩恵を受けたり、周辺住民との触れ合いにも強く貢献している。また事業所は地域性を大切にしており、独自に購入したAED装置の活用を回覧板や張り紙で周辺住民に周知するなど、介護の拠点として今後も大いに期待したい事業所である。

Ⅴ. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します									
項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求 めていることをよく聴いており、信頼関係ができて いる (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と		
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと		
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと		
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない		
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地 域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように		
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度		
			3. たまにある				3. たまに		
			4. ほとんどない				4. ほとんどない		
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者のつながりが拡がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている		
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている		
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない		
			4. ほとんどいない				4. 全くいない		
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が		
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが		
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが		
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない		
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が		
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが		
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが		
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない		
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が		
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが		
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが		
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない		
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が						
			2. 利用者の2/3くらいが						
			3. 利用者の1/3くらいが						
			4. ほとんどいない						

自己評価及び外部評価結果

自己 評価	外部 評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者と職員は理念を共有、熟知し定期開催(月2回)されるカンファレンスの中で理解を深め実践の方法を常に話し合い実践している。	理念を事務所内に張り出し、カンファレンスや会議のなかで、理解共有してケアに臨んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会行事には積極的に参加している。町内会長や地域住民との交流を図っている。具体的には町内会ゴミ拾い、新年会、敬老会、夏まつり、秋まつり等に参加させていただいて自家栽培の採れ立ての野菜を沢山頂いている。また町内の方々と散歩中お会いすると必ず挨拶や会話をし交流を深めている。避難訓練実施時には避難誘導でお手伝いいただいている。	事業所は町内会には賛助会員として加入し、利用者各人もそれぞれに加入している。町内会の行事への参加に留まらず、町内の清掃活動等にも熱心に参加するなど、地域住民との交流は深く保たれている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議で地域の方々や家族から活発に認知についての質問を頂き出席職員より説明させて頂いている。地域行事に積極的に参加し地域と交流を図ることで日々積み上げている認知症に対する実践への理解を促している。また、毎日の散歩で地域の方とご挨拶や会話交流を通して利用者の社会性の向上に活かし地域の理解にも繋がっている。AEDの設置施設として町内に向けて情報を発信している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議で活発に提出された意見を元にサービスの改善の目標を立てその成果については次回の会議にて報告を行う事でサービスの質の向上に努めている。議事はカンファレンスでも紹介され全職員に認識されている。	地域や包括を委員として定期的に開催し、議事録は各委員と利用者家族に送付されている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	必要に応じて電話等でサービス向上に関する相談や報告、意見交換を行っている。制度変更に伴う関係書類提出に当たり文面では分かりづらい事が多々あるため必ず電話か訪問で確認している。また札幌市から紹介された研修、交流会には積極的に参加している。	担当区の窓口とは顔馴染みの関係となっており、情報交換などの協力を仰げる関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	代表者並びに全職員は指定基準における禁止対象となる具体的な行為を理解している。日中は玄関の施錠は行っていない。夜間は防犯の観点から施錠を行っている。	身体拘束やそれに類似する行為について、職員全員で話し合い、具体的に認識共有し、拘束や抑制と無縁なケアに努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	カンファレンス等で高齢者介護を行う者としての倫理観を話し合い職員相互に目を配り虐待を見逃ごさないように努めている。カンファレンスの中で虐待防止の研修を定期的に行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員は研修や施設内での勉強会を通して事業内容や制度の活用についての理解を深め必要に応じて入居者の方々を支援できるような体制を作っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には十分な説明を行い説明事項の各所に疑問点や不明な点がないか確認しながら説明を進めている。不明な点があればいつでも説明させていただいている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の意見、不満、苦情について苦情処理マニュアルに沿って対応が行われように様式を整えている。	利用者については、日頃の言動から判断し、家族には来所時に意見や苦情を聴取しケアの実践に生かしている。	家族からの意見の取入れについて、積極的な姿勢が不可欠と思われ、サービス満足度アンケートなり、工夫をもった意見の取り込み、反映に期待したい。
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に行っているカンファレンスの中で意見や提案を聴く機会を設けている。活発に出された意見を職員全員で話し合い質の高いサービスに反映できるよう心がけている。	介護に関するアイデアや工夫が各種の会議で話され、活発な議論のなかには事業所の運営についても意見が出され、反映できるように努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は職場環境や条件の整備に努めている。また、全職員に対して自己評価を実施し昇給や勤勉手当の支給に反映させている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部開催研修の情報については随時周知を行い必要に応じて参加を促している。研修参加に伴う勤務調整も行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は札幌市開催のGH管理者会議、連絡会等に参加して同業者との交流、情報交換に努めサービス向上に活かせるように努力している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前の面談から本人の要望を十分に把握して施設の説明を行い理解を仰ぎつつ住環境の変化に伴う不安の緩和に努めながら徐々に会話の機会を増やしなが信頼関係の構築を進めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前の面談で施設の基本理念や取り組みについて十分に理解していただき要望の把握を行いながら家族の方々が安心していただけるサービスの提供に心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時本人や家族の話を傾聴しながら身体状況や環境を考慮し常に相談をしながらサービスの提供に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は入居者の方々の出来ない事を支援する一方で人生の先輩である入居者の立場を踏まえ生活の知恵や体験談を学び共に成長できるように努力している。入居者と職員の間においても互いに失礼のない人間としての立場を尊重し合える関係が築かれている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事等に気軽に参加していただき家族の入居者に対する想いや今までの生活歴、将来に対する希望を聴かせていただくと共に施設の支援方針等をお伝えして共に入居者の生活を支える関係作りを行っている。どの家族とも親和に語り利用者の話又は世間話を心から楽しむ事が出来る。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	近親者宅への訪問を支援している。入居前の人間関係の継続に積極的に支援を行っている。ホームに来訪されたいと思っても移動手段が確保できない近親者の方々へもパンフレットに分かりやすく所在地を明記するとともに最寄りの駅までお迎えに上がっている。	近親者や馴染みの友人の来所面会には積極的に取り組んでおり、事業所の車両でお迎えや送りも行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者が孤立する事のないように食事の席や行事等での配置も工夫している。又、良好な関係が築かれるように職員が介入しながら支援を行っている。利用者同士は思いやり助け合い散歩中等は身体能力の高い利用者が介助を要する入居者の乗った車椅子を押し気遣いながら歩かれている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された入居者や家族の方とは契約が終了しても連絡が取れ相談が出来るように配慮している。ホームの便り(凧便り)もお届けしている。農業を営む家族からは退去後もご厚意で野菜等を頂戴する機会がある		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前から本人や家族から要望を十分に聴き取り入居後の環境の変化に伴う不安を緩和しその人らしい生活が送られるように支援を行っている。生命の維持に影響を及ぼさない限り安全において本人の希望把握と実現を目指している。	日々、生活を支援する中で思いや意向を把握し、介護者全員で共有し本人本意のケアに取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に情報収集した内容については個人ファイルを作成して個人情報(生活歴、サービス利用の経過)を集約し把握に努めている。新入居者についても全職員に個人情報を周知情報の共有が図られるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活はその方のADLや嗜好によっても違い、ご本人の有する能力、又は好ましい生活様式を創造し家族や人との関わりが作る多くのご本人の表情からも把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者個々の身体状況や精神状況に合わせた介護計画を作成している。介護計画作成時には事前に本人又は家族にモニタリング結果を報告し要望を聴き取りや文書で確認してケアマネと職員が意見を出し合い入居者の実情に迫るプランの作成に努めている。作成後は本人、家族に十分に説明し理解をいただいた後に支援を開始している。	担当者が介護計画の骨子を作り、家族や他のスタッフの意見や同意を得ながら作成している。毎日のケアについても介護計画の目標に向かって進められている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者の個別の情報ファイルを作成して入居から退居までの記録が記され保管されている。記録は入居者毎に担当を決めて日々の変化や状態が分かり易いように記録、介護計画作成に反映されている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われ無い、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者やその家族におかれた環境の変化によって柔軟に対応して必要なサービスの提供を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会、商店、民生委員、ディケア、ボランティア、警察、消防との協力体制を取っているがより一層協力体制を広げ良質なサービス体制を目指している。特に火災への取り組みは消防署立ち会いで昼夜を想定した訓練の実施と毎月実施している自主訓練の実施等綿密なマニュアルの作成を行っている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の訪問診療を受ける事で身体状況の変化を把握していただいている。特変時あるいは緊急時には受け入れの確保が整っている。主治医は特変時に不定期で往診を行い健康管理の強化が図られている。	かかりつけ医は利用者と家族の意向を汲んで決めており、希望に沿って訪問診療を受けている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	事業所として看護職員を配置して訪問診療との連携を図り入居者の方々の健康管理に努めている。健康状態の変化について把握することが出来ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力医療機関との間で入退院の連携が取れており病院側にも早期退院による認知症及びADLの低下予防を理解いただいている。情報交換を密接に行い相談に努めながら入居者の方々が安心して入退院が出来るように支援を行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居の際に看取りについて家族に説明を行っている。訪問診療、協力医療機関との連携を取り緊急時の受け入れ体制を整えている。終末期と判断された場合、医師、家族、ホームで話し合いターミナルに取り組みその人らしい看取りを行っている。また、カンファレンスで支援の方向性を常に話し合いながら家族との話し合いも適宜行っている。終末期の介護の勉強会も実施している。	入居の契約時に、看取りの方針を説明し、同意を得ている。今までも何例か看取っており、その経験を共有し、かつ勉強会にて重篤と終末の介護を学習している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員が救命救急の研修を受講してカンファレンスの中で研修報告と実践方法について受講者からの報告に合わせ多様な場面を想定した勉強を行っている。AEDの導入設置から操作方法の研修を繰り返している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	町内全体で災害に備えたハザードマップを施設内に掲示、全職員が熟知して災害時の避難経路、場所を確認し常に近隣住民からの協力も得られるように日頃から連絡体制を築いている。	ほぼ月に一度は避難訓練を実施している。消防署の立会いでの訓練も夜間想定を含め年二回、近隣住民の参加も得なが行っている。夜間勤務は2人体制を取っている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者にあつては自分以外の入居者の関係記録が他者の目に触れないようになっている。接遇についても個人を尊重して気持ちを傷つけないように配慮している。	人格の尊重は接遇の一環として研修を通して徹底しており、手近な書類や記録などにも、注意しながら対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活を通して本人の希望を把握しながら可能な作業に専念している。毎日の着衣や献立の希望についても可能な限り自己決定出来るように支援を行っている。入浴準備も可能な限り本人と一緒に衣類を選ぶようにしている。シーツ交換も一緒に行っている。		
38		職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援し	季節の行事や散歩、パークゴルフ、体操、入浴ディ・ケア通所と言った日々の予定の中で利用者が無理なく自分のペースで参加出来るように支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に合った衣類、帽子、靴の選択をしている。外出が可能な方には理美容の支援、外出が困難な方には訪問理美容の提供を支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は健康を考慮し利用者の意見を取り入れている。旬の食材を使い季節感に工夫している。食事形状や摂食制限がある方についても楽しんでいただける盛りつけや食器の工夫を行っている。利用者と芋や山菜の皮むき、いんげん、もやしの髭取りを行っている。	食事は作業となることを避けて、楽しむことを重点に取り組んでおり、長時間の食事になっても飽きのこない工夫で食事を楽しめるよう努めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	健康状態や医療的な指示に従い十分な水分量と栄養に心掛け調理、提供を行っている。残食は一切なく水分は純水で1,500～1,600ml無理なく摂取している。チェック表を設け摂取量の確認を必ず行っている。糖尿病の方も食事療法で薬が半減又は中止になった。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯磨きの声掛けを行いながら可能な限り自力での口腔内の清潔の保持に心掛けている。動作の自立度に応じて職員が一部介助を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者の排泄サイクルを把握するために排泄チェックを行っている。利用者の身体能力に合わせて可能な限り排泄動作が行えるように自立支援を行っている(拭き取り動作、水流し動作、手洗い動作)。	トイレでの排泄になるよう努めており、排泄のサインや仕草などを職員は共有し、無理のない排泄等に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	入居者の排泄サイクルを把握するために排泄チェックを行っている。排泄のリズムが崩れないように食物繊維や水分の摂取量に配慮して散歩等適度な運動の確保にも努めている。往診の際には必ず主治医に排便に係る報告を行い随時下剤の調整を行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴動作の自立している方の希望は考慮している。介助を要する方々については話し合いで入浴の順番を決めたり湯温の希望を聴くなど配慮を行っている。現在週3～4回の入浴を行っている。概ね月1度位温泉に行き広い浴場でのびのびと入浴していただき心身のリフレッシュを図っている。	週に3回以上の入浴になるよう努めており、事業所以外のお風呂として近隣の温泉も月に1回は活用し、楽しんで、のびのびできる沐浴に取り組んでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者の体調や習慣に応じた休息を提供している。良眠のための配慮として室温、湿度、音、光の調整を行ったりシーツ交換、布団干しを定期的に行い清潔な寝具の提供や昼夜逆転にならないように配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者各人が服用している処方情報紙をファイルしいつでも閲覧出来るようになっており職員は定期的にカンファレンスにて薬の目的などについて周知するとともに把握に努めている。処方の変更については職員が把握出来るように情報の伝達(申し送りノート)の活用)に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	過去に習い事を希望する方に楽しみが継続される支援を行っていた。歌に関心のある方とは一緒に唄い、家事が出来る方には安全に参加していただけるように本人の能力に合わせ活かせる場を提供し支援を行っている(洗濯物干し、たたみ、野菜の皮むき等簡単な調理作業)春夏秋冬の取り組みとしてパークゴルフへの参加を支援し楽しみながら参加して健康増進に取り組んでいる。TV、ビデオを活用し好みの動物の動画を観て心温まる時間を過ごしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	健康状態や天候を考慮しながら散歩はほぼ毎日実施している。行事等の外出についても健康状態を考慮して実施している。雨天、降雪時にはドライブ、近所のスーパーやプラザに行く等一日中家に籠もる事のないように取り組んでいる。	散歩は毎日の日課として午前午後と実施し、近隣のお祭りや市の大きなイベントにも欠かさずに参加し、雨の日も工夫を凝らしながら外出の支援に取り組んでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の自己管理が可能な入居者については訪問販売時(乳酸飲料、パン等)の支払いや近所のコンビニエンスストアへ希望の品を購入に行った折の支払いを支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状、暑中見舞いは毎年ご本人と一緒に絵手紙を作成し送っている。数人のご家族様より年賀状が届き利用者の方々それぞれが喜んでおられる。筆記困難の方への代筆や電話は掛けられないが会話が可能な方への操作支援を行っている。現在電話を出来る方は1名しかいないためその方についてはご家族に電話をして下さるよう提案し電話をして頂き支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は家庭的で各自の居室を出ると茶の間があるという安心設計である。居間には観葉植物、書が飾られ心落ち着く環境への配慮がなされている。鏡をホール、通路に設置して整容していただける配慮を行っている。	建物内の共同空間、居間や食堂は手狭ではあるが落ち着く工夫が見られ、大きな窓からの採光もゆったりとした雰囲気を感じ出しており、安堵感のある共有スペースとなっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間のテレビの前にはソファが設置され窓際には広くたみの椅子が設けられ入居者個々にゆとりのある生活を楽しんでいる。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者個々の生活形態に合わせて馴染みのある本人の使い慣れた家具をお持ちいただいている。仏壇を持って来られている方には仏壇や仏花等の配慮も行っている。	各居室は使い慣れた家具や家財が配置されており、利用者ひとり一人の個性が現れており心地よい空間となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各人の居室の前には希望に応じて写真と表札を飾り迷う事がないように配慮がなされている。ホールには入居者の額入り写真が飾っている。他の入居者の顔、名前をさり気なく確認できる配慮に繋がっている。自分の洗濯物をためる方には自室へ運んでいただき収納までを支援している。またトイレの場所が分からなくなっても本人が気付けるように扉に札が取り付けられており混乱は緩和されている。		